

先週のファミリー礼拝メッセージ(2021年10月31日)

「万軍の主の名によって」 サムエル記上 17:41-47

今日の箇所は、まだ少年だったダビデが巨人ゴリアトと戦ったことが記されている箇所です。当時、イスラエルの人々は、ペリシテという強い国と戦っていました。

ペリシテ軍には、名前をゴリアトというとても強い兵士がいました。強だけでなく、身長も3メートルほどもある巨人です。

そこに父の言いつけで、兄たちの陣中見舞いにやってきたダビデ少年。そこでゴリアトが神様を馬鹿にするのを聞いたダビデは、彼に立ち向かうと言いました。その言葉がサウル王の耳に届き、ダビデはサウル王のところに呼ばれました。

サウルは自分のよろいやカブト、つるぎをダビデに着せましたが、慣れていない彼はうまく動くことができません。それらを脱いで、杖一本で巨人ゴリアトの前に進み出たのです。

ゴリアトは、少年ダビデを馬鹿にし、生ける神様を侮りました



ダビデは、川岸の石を拾い、それを石投げ袋に入れて投げました。見事石はゴリアトの額に命中し、ゴリアトは倒れ、ペリシテは逃げていき、イスラエルは大勝利しました。

これが今日のお話のあらすじです。

ここで確認しておきたいことは、ダビデが、石投げが上手だったから、あるいは熊やライオンを倒した経験があったから、勝利したのではないということです。もちろん、ただ単に「僕がゴリアトを倒してヒーローになる」と思って戦ったわけでもありませんでした。もしそうなら、ダビデは間違いなく負けていたでしょう。

ダビデは、「わたしは万軍の主の名によって、お前に立ち向かう」(45節)という信仰によって勝利したのです。

ダビデはこのように勝利したのですが、皆さんは毎日の生活の中で戦いはないでしょうか？

戦いを別の言葉で言うなら、辛いこと苦しいこと、嫌なこと、克服しなければならぬこと、あるいは愛せない、ゆるせないといった心の中のことと言えるでしょう。

イスラエルの兵隊たちのように、どうせやっても無理だと諦めますか？

イスラエルの兵隊たちは、巨人ゴリアトを前にして怖くて震えて、どうせ勝てない、どうせダメだと、最初から諦めていました。

あるいはゴリアトのように、俺様は強い、神の助けなんかいない、わたしには力も才能もある。他の奴には絶対負けない、自分の力で勝ってみせると神様抜きに頑張りますか？

ダビデの手にはつるぎはありませんでした。ゴリアトが少年ダビデを見て笑ったように、誰もダビデの勝利など思いもしませんでした。

しかし彼は、万軍の主の名によって立ち向かったのです。万軍とは、全ての主権をもっているという意味です。主権とは、神様が全てのことを動かしているという意味です。

全てを動かしている神様に信頼して、ダビデはゴリアトに立ち向かったのです。

万軍の主がダビデの心を強め、主が石を選ばせ、主がダビデの腕を回してくださり、主が石の飛び方向を決め、主がゴリアトの額に石を命中させてくださったのです。

これが万軍の主の名によって立ち向かった結果です。

私たちの毎日の小さな決断に、万軍の主は導きを与えてくださいます。

もちろん、仕事のことや学校のことなど、大きな決断にも、万軍の主は道を備え、扉を開いてくださいます。

恐れなくて、諦めないで、そしてへりくだって、万軍の主の名によって一歩進みましょう。

今日も主は、私が万軍の主の名によって放つ信仰の石で、立ちはだかる問題の大きな壁を崩してください。

